

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マダラ

学名 *Gadus macrocephalus*

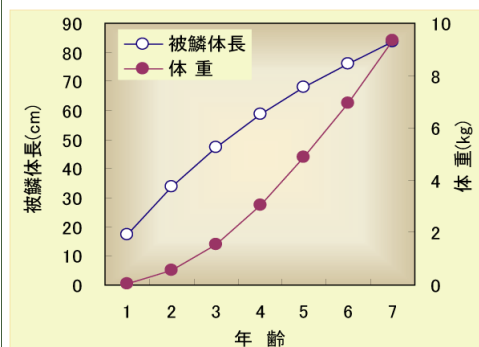
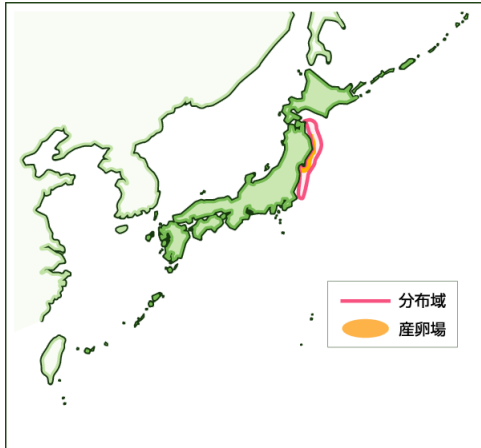
系群名 太平洋北部系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳前後
成熟開始年齢: 3歳(20~90%)、4歳(100%)
産卵期・産卵場: 12~3月、仙台湾~三陸沿岸の各地
索餌期・索餌場: 周年、水深100~550mの底層
食性: 浮遊期にはカイアシ類幼生、魚卵および十脚目幼生、若齢期にはオキアミ類、成魚期には魚類と頭足類
捕食者: 大型のマダラは小型のマダラを捕食

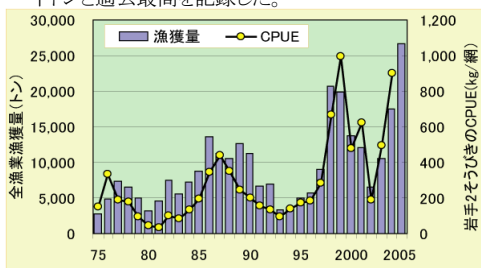


漁業の特徴

沖合底びき網漁業で最も多く漁獲され、次いで延縄、小型底びき網漁業が多い。これらの漁業では周年漁獲されているが、冬に産卵のために接岸する大型個体を対象とした定置網や刺網による操業も行われている。漁獲対象となるのは生後満1歳ぐらいからで、狙い操業が多いため漁獲圧が強く、近年は特に若齢魚(1歳魚)に対する漁獲圧が強い。

漁獲の動向

漁獲量には大きな変動が認められる。近年の漁獲量は1997年以降大幅に増加し、1998年と1999年には20千トンを超えて記録した。その後減少し、2002年には6千トン台となったが、2004年には15千トンになり、2005年は暫定値ながら27千トンと過去最高を記録した。

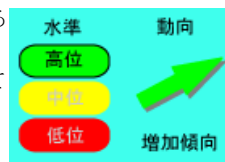
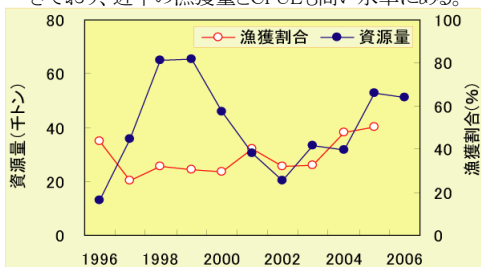


資源評価法

1995年以降、毎年秋季に青森県沖~茨城県沖の分布域を網羅した着底トロール調査により採集した全個体の年齢を査定し、年齢別に面積密度法を用いて現存量を求めた。さらに過去のコホート解析および現存量調査の結果をもとに年齢別に採集効率を算定し(1歳魚0.64、2歳魚0.54、3歳以上0.12)、調査で求めた値に乗じて現存量を推定した。

資源状態

2006年の1歳魚の加入量は、過去11年間では5番目に多い。これは近年多く発生している卓越年級の約半分に相当する量である。また、2歳魚および4歳魚の生き残りも良いため、2002、2003および2005年級と最近の4年級のうち3年級で資源量が比較的多い。そのため、近年の現存量は1990年代後半よりは少ないものの、それに準ずる水準にまで回復してきており、近年の漁獲量とCPUEも高い水準にある。



管理方策

現在、若齢魚に対する漁獲圧が非常に高い傾向にある。マダラの成長は非常に早いため、若齢魚の漁獲圧を下げることで資源をさらに増加させることができると考えられる。さらに、成魚までの生き残りを増やすことは親魚量を増やし、次世代の加入を促す効果があると考えられる。これらのことから親魚までの生残を高め、資源水準を向上させることを管理目標とした。2006年以降の選択率は2001～2005年の平均値とし、自然死亡係数は寿命から求め、各年齢で一定とした。その条件の下で、漁獲圧をさまざまな基準で規制したときの漁獲量と資源量の変動をシミュレートし、管理目標に沿った漁獲圧を選定した。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	13,100トン	F20%	0.39	27%
ABCTarget	10,800トン	0.8F20%	0.31	23%

- F値は各年齢の平均
- ABCは100トン未満で四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 加入量には年変化が大きい、2004年級と2005年級は良好である
- 近年の資源水準は高位、動向は増加傾向である
- 漁獲の中心は1～2歳魚なので、1～2年間の加入の良否で漁獲量は大きく変化する

管理方策のまとめ

- 成長が非常に早い、加入量が比較的少なくとも若齢魚の保護によってある程度の資源水準を保つことが可能である
- 生殖腺の商品価値が高いにもかかわらず若齢魚に対する漁獲圧が高い
- 早期に加入量の水準を把握することが重要であるとともに、若齢魚に対する漁獲圧を下げる努力が必要である

資源評価は毎年更新されます。